

J A 金沢中央

全6支店で朝市

J A 金沢中央（金沢市）は今年度、地元で採れた野菜などをテントで販売する朝市を全6支店で始める。朝市は14年前まで大徳支店で開かれていたが、生産者の高齢化などを理由に中断していた。兼業農家や家庭菜園を樂しむ人たちの販売を支援するために再開、拡大することとなり、6月19日の二塚支店での開催を皮切りに、年内に全支店で開始する。

「ふれあい朝市」と銘打ち、二塚支店では週3回のペースで午前8時半〜10時半に、三馬、米丸支店も生産者ら駐車場にテントを張って開催する。初回は旬を迎えるキュウリやピーマン、インゲン、ナス、枝豆などが並ぶ予定だ。鞍月、大徳、戸板、米丸支店も生産者らとともに準備を進めている。

同J Aの朝市は、大徳支店



朝市に向けて野菜の成長を確認する生産者（金沢市内）

来月から 生産者と住民 交流の場に

で2001年から3年間、支店前の駐車場で毎朝、開催されていた。オープン前から行列ができるほどの人気だったが、生産者の高齢化などを理由に朝市の継続が難しくなり、やむなく中断した。

同J Aによると、管内は住宅地が多く、小規模な兼業農家や家庭菜園で野菜づくりを樂しむ人が多いという。同J Aには、J A金沢市の「ほがらか村」のような直売所がなく、「家庭で食べきれない野菜を出せる場所があればいい」などの声があったため、朝市を復活させることにした。

同J Aは今年から、全職員約140人が市内のビニールハウスで野菜栽培に取り組み、栽培のノウハウを学んでいる。朝市では職員が店頭に立ち、生産者が持ち寄った野菜の販売に当たる。

田村政博代表理事組合長は「J Aや生産者、住民の交流の場となればうれしい」と話した。



神事能に見入る来場者
（金沢市寺中町の大野湊神社）

少年補導功勞 3人を表彰

金沢東連絡協議会

金沢東少年補導員連絡協議会の総会は15日、金沢市のANAホリデイ・イン金沢スカイで開かれ、出席者約40人が功勞者3人をたたえた。

太田治郎会長、坂尻勇一署長があいさつし、今年度事業計画案を承認した。表彰されたのは次の皆さん。

▽少年補導功勞 花岡睦子、出口博明、松田晃江

キュウリの育て方を指導 児童にJ A金沢市

児童にJ A金沢市

J A金沢市砂丘地集出荷場胡瓜部会は15日、同市三和小学5年生84人に金沢のキュウリ産地や育て方などについて指導した。

部会から同校にキュウリの鉢植え4鉢が贈られ、本野壽一部会長らが児童にキュウリの育て方のコツや管理の仕方などを教えた。指導は16日、浅野川小、十一屋小でも行われる。

新社屋で野々市 不動産業の野々市

不動産業の野々市（野々市市）同市位川の新社屋を開始した。

新社屋は業い、旧社屋の隣に、旧社屋の隣に新築され、4月木造平屋建て、平方メートルで、事務スペースなどがあ社長は「気軽に何でも相談でき型の会社を目指した。」

同神社によると4（慶長9）年に代藩主の前田利長の合戦で勝利した念して能舞台、樂し、神事能を始め、金沢能楽会と金の会員が素謡や能「来殿」、狂言「披露」、金石幼稚園児51人は連吟「羅発表し、拍手を浴11回寺中の杜芸わかれ、住民団体が民舞で練習の成りした。例祭は16日した。